１年　前期の実践　　Ｈ．１５．２．２８

学年研修目標　自分の思いを持ち、自然や仲間との関わりを大切にして活動する子

活動のテーマ　どきどき　わくわく！　ともだちいっぱい

○具体的な活動内容と児童の表れ

【2学期】

１．わたしのかぞく

かぞくをしょうかいしよう

自分の一番身近な家族をみんなに紹介しようと活動を始めた。子供たちは、自分の家族を友達に紹介するということで、とても意欲的に取り組んだ。はじめに誰を紹介したいか決め、どんなことを知らせたいか考え、次にどんな方法で表現するか決めて取り組んだ。選んだ家族のどんなところを一番紹介したいかいろいろ考え、それに合わせて絵に描いたり、写真を貼ったり、ペープサートを作ったりした。発表は、クラスにより、グループや全体で行ったが、どの子も楽しそうに紹介をしたり聞いたりしていた。

ただ、子供たちの家庭環境が複雑になっているので、取り上げ方を配慮する必要がある。　（資料１　参照）

（資料１）　（わたしのかぞく）

おてつだいだいさくせん

家族に目を向けた子供たちの中で、お母さんの家での仕事を紹介した子がいたことから、家の中の仕事を調べてみることにした。休みの一日に、いつ誰がどんな仕事をしていたか調べた子供たちは、家の中には、いろいろな仕事があり、お母さんやお父さん、おばあさんやおじいさん、兄弟がみんなで仕事をしていることや、その中でもお母さんの仕事が多いことに気づくことができた。

そこで、自分にもできるお手伝いをしようということで、何をするか考えて決めた。新聞取り、洗濯、ご飯のしたく・片づけ、お風呂洗いなどを実践してみた。子供たちからは、「初めて洗濯をしたけれど、楽しかった。お洗濯物が多かったので大変だった。」「お米を洗うのがちょっと難しかったけど、できてよかった。」「お買い物に行く前は、ちょっと不安だったけど、お豆腐をもらって帰るときは、もう平気だった。家についたら、お母さんにほめられた。」などの声が聞かれた。

中には、「いつもお母さんは、すごく疲れていると思います。だから、わたしももっと、お手伝いをしたい。」「お母さんは、こんなに大変な仕事をしているんだと思った。」など、お母さんの大変さに気づき、自分はもっとできる手伝いをしたいという、家の仕事に対する意欲が出てきた。そのため、続けていくこととした。　（資料２　参照）

また、ちょうど冬休みを迎えようとしていたので、休みの間にやる仕事を決め、実践することにした。　その活動の中で、手伝いが日常化した子も何人かいた。

（資料２）　（おてつだいだいさくせん）

【3学期】

２．ふゆとあそぼう（おしょうがつのあそびをしよう、ふゆをみつけよう、おおおかこうえんであそぼう）

おしょうがつのあそびをしよう

冬休みに、子供たちは、それぞれ家庭でお正月の遊びをやってきたので、クラスの友達ともいっしょにやりたいという声が聞かれた。そこで、カルタ・すごろく・だるま落とし・福わらい・はねつきなど、グループごとに遊んで楽しんだ。

だるま落としや福わらいを初めてやった子もいて、友達にやり方を教えて上げながらいっしょに楽しんで遊んでいる様子が見え、お正月の遊びの経験を広げることができた。

また、家から自分で福わらいを作ってきて、遊ぶ子も出てきて、集団での遊びの楽しさも味わうことができた。　（資料３　参照）

（資料３）　　（おしょうがつのあそびをしよう）

ふゆをみつけよう
おおおかこうえんであそぼう

３学期に入り、子供たちは、登校の途中で水に張った氷を見つけて持ってきたり、畑の霜柱を見つけたりして、冬の様子に気付き始めていた。

２月に入ってすぐ、大岡公園に出かけ、秋の様子と比べてみた。ちょうど大岡公園の西側の畑に霜が降りていて、太陽の当たっているところとの違いがはっきりとしていて、子どもたちも驚いていた。また、草におりた霜を触ったり、手のひらに置いて見たり、すぐにとけてしまうのを実感したりしていた。

（資料４　参照）

（資料４）　　（ふゆをみつけよう、おおおかこうえんであそぼう）

３．もうすぐ２年生（できるようになったよ、１年生をむかえるよういをしよう）

できるようになったよ

４月から今までのことを振り返り、自分たちができるようになったことは何か投げかけてみると、「漢字が書けるようになった。」「たしざんやひきざんができるようになった」「大縄飛びが、初めてできた。」「跳び箱が跳べて嬉しかった。」など、たくさんのことができるようになったことを実感することができた。

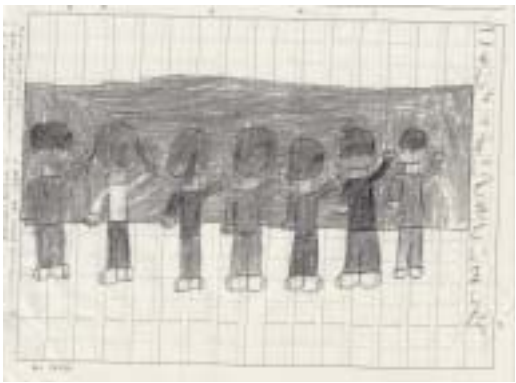
それらのことを、家の人にも見てもらいたいという気持ちから、２月４日の１年生最後の参観日に、家の人の前で発表することにした。

子供たちは、自分の発表したいことを決め、練習に取りかかった。漢字の発表に決めたものの、字の正確さに不安があった子も、友達といっしょに問題を出し合う中で更に正しい字を書く力がついたり、大縄の八の字回旋を続けては飛べなかった子も、休み時間にみんなで練習することにより、続けてできるようになったりした。

発表会の当日に、発表の前に自分を振り返る言葉を言ったり、大勢の前で発表したりすることにより、更に自分に自信を持つことができた様子が感じられた。

また、友達の発表を見たり聞いたりすることにより、自分のことしか見えなっかた子供たちが、友達の上達や良さを認めて、いっしょに喜んであげている様子が分かり、成長が感じられた。　　（資料５　参照）

（資料５）　　（できるようになったよ）



４．ありがとう６年生（おせわになった６年生にかんしゃしよう）

おせわになった6年生にかんしゃしよう

４月から、南っ子活動や掃除、休み間の遊びなどで、ずっとお世話になっている６年生も、もうすぐ卒業して中学生になることが分かると、ありがとうの気持ちをこめて何かしたいということになり、子供たちと話し合うと、いろいろな意見が出てきた。「お手紙を書きたい。」「６年生の顔を描いてあげたい。」「プレゼントをしたい。」「お礼の言葉を言いたい。」など、子供たちの思いは、広がってきた。

そこで、ペアの６年生の似顔絵を描いてプレゼントすることと、ありがとうの気持ちをこめて、歌を歌ったり呼びかけをしたりすることにし、６年生といっしょに、「ありがとう６年生の会」を行うことにした。

当日は、呼びかけに始まり、６年生のペアといっしょでの「なかよし牧場」のゲーム、そして最後は、「ありがとう６年生」の歌で終わった。ゲームは思い切り楽しみ、歌は心をこめて歌うことができ、最後の握手では涙を流す子もいた。６年生からもらった手紙をじっと読み、嬉しそうにしている姿が見られた。

（資料６　参照）

（資料６）　　（おせわになった６年生にかんしゃしよう）